

金属団地ニュース





令和元年度 金属団地労働衛生大会

「健康づくりは 人づくり みんなでつくる 健康職場」



安全衛生管理者協議会
会長 小栗 國 男

全国労働衛生週間は、労働者の健康管理や職場環境の改善など、労働衛生に関する国民の意識を高めるとともに、職場での自主的な活動を促して労働者の健康を確保することなどを目的に昭和25年から毎年実施しているもので、今年で70回目になります。

労働者の健康をめぐる状況についてみると、過重労働などによって労働者の尊い命や健康が損なわれるなど、深刻な社会問題になっています。そこで冒頭で記述しました今年のスローガンですが、健康であることは働く上での基本であり、職場で一丸となって健康確保対策を進めることで、誰もが安心して健康に働ける職場を築いていくことを表しています。

10月1日朝8時30分より、9月19日に行われたプレパトロールでの指摘事項の改善を中心にパトロールが開始され、岐阜労働基準監督署の渡邊主任監督官には、協議会役員と共に、(株)常盤電機さん、(有)高橋鉄工所さん、丸嘉工業(株)さんのパトロールに同行して頂きました。午前10時、組合研修センター3階集会場にて「衛生大会」がスタートしました。



会長挨拶の後、各委員長さんに、委員会ごとに取りまとめたパトロールの結果を発表して頂き、渡邊主任監督官から今回パトロールされた3社の総評、岐阜労働局管内における労働災害の発生状況などのお話を頂きました。事故の種類としては墜落、転落、あるいは転倒などが多く発生しているようです。今年の4月には働き方改革の一部がスタートしました。少子高齢化に伴う労働力不足、また働く人のニーズの多様化など、環境が変化しています。徐々に、定年の延長、再雇用などにより高齢者、あるいは女性による作業が増えてきます。作業前の準備体操など習慣付けていくことも必要になってくるのではないのでしょうか。働き方改革を進めていくにあたり、様々なご苦労があるかと思いますが、皆さんで知恵を出し合い、また情報を交換しながら改革を推進していくことが出来ればと思います。

最後に衛生コンサルタントの中尾守孝先生に「働き方改革等の改正と産業医等の有効活用等」(これからの安全衛生管理なにをすべきか)というテーマで講演を頂き無事に大会を終えることが出来ました。



監督官総評



岐阜労働基準監督署 第二方面主任監督官

渡 邊 吉 徳

日頃より岐阜県金属工業団地協同組合の皆様におかれましては、労働基準行政の推進に格別の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

岐阜労働基準監督署管内の令和元年9月末日現在の全産業の休業4日以上の労働災害による死傷者数は、477人で前年同時期と比較すると3人の増加、このうち死亡者は6人となっており、前年同時期と比較すると3倍(4人の増加)となっています。これ以上の死亡労働災害の発生を防ぐため、岐阜労働基準監督署では各事業場に「死亡労働災害緊急取組のお願い」を配布し、労働災害防止への取り組みの緊急要請をしております。皆様におかれましても、「転倒災害防止」「墜落・転落災害防止」「荷役作業」「交通労働災害」などの項目について、緊急点検をお願いします。

また、昨年6月29日に働き方改革推進関連法が成立し、時間外労働の上限規制、年次有給休暇の5日間の付与義務など労働基準法の改正があり、主要な事項については今年度4月から順次施行されています。岐阜労働基準監督署では毎月説明会を実施しておりますし、ご要望のある事業場に対しては、法改正等の説明をするため当署の労働時間相談・支援班が訪問させていただいています。説明会の参加や、訪問支援を希望される場合は当署へご連絡ください。

さて、今回のパトロールは、3事業場の安全パトロールをさせていただきました。

まず良かった点です。

一つ目は、人手不足を背景に外国人労働者が増加しており、外国人労働者の労働災害も増加傾向にあります。そのような背景の中、外国人労働者への安全対策として、各種掲示物や作業手順などを母国語で表示をしたり、作業ごとに必要な保護具を写真により見える化し安全ドレスコードを掲示するなど工夫をしていました。

二つ目は、ヒヤリハットを分析し、労働者の不安全行動を抑止する工夫を行っている点でした。具体的には過去に保護帽を着用しないで脚立を使用していた事案に対し、脚立と保護帽を近接して置くなどの対策を講じていました。

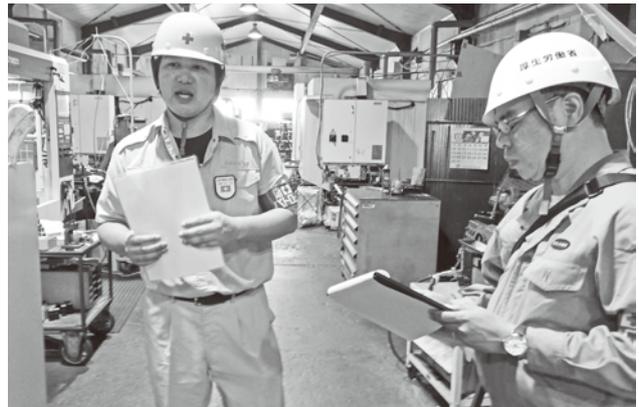
三つ目は、安全管理者のパソコンを工場内に設置することで、現場の作業の安全を直接確認できる時間を増やす工夫をしていました。デスクワークが増えている中でも、現場を見渡すことができる面白い試みだと思います。

次に改善をお願いしたい点は次のとおりです。

一つ目、耳栓を労働者に配付をしているのですが、使用するか否かを労働者に任せている現場があ

りました。安全衛生では、「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」の3つの管理が基本です。作業環境管理とは、作業管理中の有害因子の状況を把握（騒音レベルや粉じん濃度、有機溶剤の濃度などを測定）し、できるかぎり良好な状態で管理することです。作業管理とは、有害要因のばく露や作業負荷を軽減するような作業方法を定め、それを適切に実施させるように管理することです。これには改善が行われるまでの一時的な措置として、保護具を使用させることも含みます。健康管理とは、労働者の健康状態を健康診断で把握して、その結果に基づいて適切な措置を実施し、健康障害を未然に防ぐことです。騒音レベルの高い現場においても、まずは作業環境測定を実施し、測定結果を評価し、評価結果に応じた保護具の着用を指示してください。

二つ目は、構内下請への安全対策です。パトロール中に、関係請負人が軍手をしたままボール盤を使用していました。社内では、軍手を禁止しておりますが、関係請負人には周知されていないようでした。製造業においては業務請負を利用している事業場も多いと思いますが、関係請負人によっては、事業規模が小さく安全衛生に関する知識が乏しいことが多々あります。定期的に関係請負人と作業手順や、安全衛生規定に基づく作業方法に関して協議したり、関係請負人に対し必要に応じ、安全衛生教育の資料提供などをしてください。



代表者会議を開催

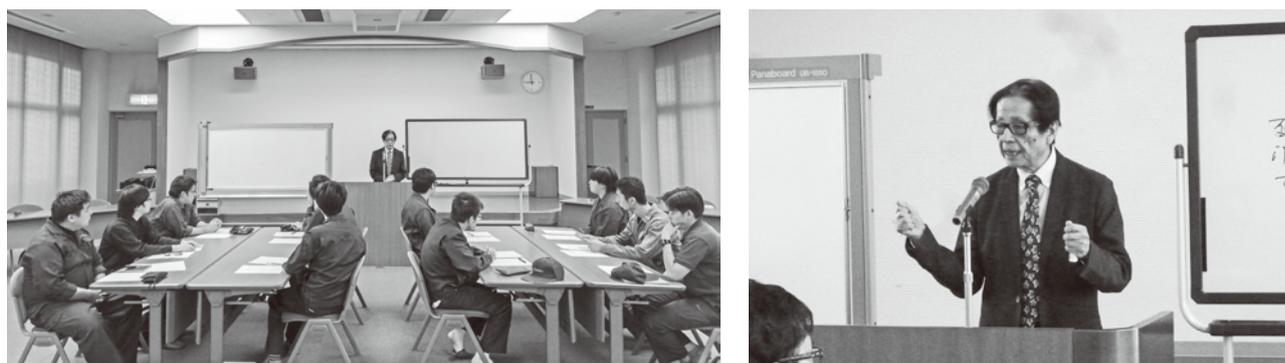
10月30日(水)15時より組合研修センター 3階の集会室において代表者会議が開催されました。組合の事業経過報告と講演会として野村証券岐阜支店の東英憲支店長を講師にお招きし『最近の経済動向について～世界経済発展の恩恵を地元でいかに享受するか～』と題しご講演いただきました。その後場所を十八楼に移しまして、懇親会を行いました。他団体に習い、今年度より実施いたしましたが、お気づきの点がございましたら組合までお知らせください。



新入社員フォローアップ研修

令和元年10月8日(火)・9日(水)9時から12時まで、組合研修センター3階にて、「新入社員フォローアップ研修」が行われました。講師に経営コンサルタント・中小企業診断士の澤芳美氏をお迎えして、新卒社員を対象に4社10名の参加を得ることが出来ました。

澤芳美の成功塾「実力を決めるのは行動力の差である」と題して、入社後仕事を通じて体験したことを整理するとともに、現状における課題の認識、仕事の上手な進め方・取り組み方等をレクチャー方式とバズセッション方式で学びました。参加者の積極的な取り組みに澤先生も感心し、今後の成長と活躍を期待して研修を終えました。



組合員親睦旅行開催

令和元年度、組合員親睦旅行は10月4日、5日の1泊2日で、大阪に行ってまいりました。参加者は18名で、過去40名もの参加があったことを考えるとすこし寂しいですね。

両日とも快晴に恵まれ、日中は夏日並みで汗ばむ陽気でした。

初日の4日、組合駐車場を8時頃出発、午前中はほぼ移動です。途中何度かの休憩をはさみつつ、阪神高速で渋滞に巻き込まれながらも定刻どおり昼食会場の『つるとんたん』に到着いたしました。

うどん会席ということで、最初に細うどん、前菜、お造り、焼き物等中居さんによって運ばれます。お腹が満たされてきたそんな折、シメうどんの登場。驚嘆の声があちこちから上がります。それもそのはず、運ばれてきたのはうどんの器なのか？と思うような圧倒的にかさの器（レンゲもでかい）、目の前に配膳されると、うどんの量も相まって威圧感すら覚えます。思えば移動中のバス車内にて会席のシメのうどんの注文票を書いていたのですが、麺玉数1・2・3の選択肢の中からなんとなく真ん中の、2に○をつけている方が多数でした。オイオイオイ知ってるなら教えてくれよといった雰囲気でしたが、私も知りませんでした。。。しかし出されたうどんはみなさん美味しくいただきました。



お腹も満たされたところで、日本一の高層ビル「あべのハルカス」を目指します。天王寺公園バス専用駐車場からハルカスを背景に集合写真を撮パチリ。

岐阜県で一番高いビルと言えば駅前の岐阜シティ・タワー 43 (163メートル) ですが、このあべのハルカスは300メートル。展望台まであがると広大な景色が待っていました。

また、一部参加者が、最頂端部(外壁のない屋外のところ)のデッキを命綱一本で渡る人気アトラクション『エッジ・ザ・ハルカス』に挑もうとしましたが、漏れなく飲酒の為NGでございました。残念。(参加するには飲酒などの制限項目や注意事項があります！！)

私たちが来た前日の10月3日に来場1000万人を超えたらしく、セレモニーをやっていたようです。ちなみに1,000万人目の来場者にプレゼントされたものは1 / 1000ハルカスフィギアと入場パスポート1,000万日分だそうです…。



一行はハルカスを後にし、宿泊するミナミアリアのホテルへ、チェックインを済まし夕食まで各自過ごしました。

道頓堀では、かに道楽のかにや、たこ、餃子、牛、竜、くいだおれ太郎、グリコなどのフォトジェニックなスポットがたくさんあり、見ているだけでも楽しくなります。巨大なフグのちょうちんが目印の『つぼらや』にてふぐ料理に舌鼓を打ち初日を終えました。

ミナミは本当に外国人観光客が多く、多言語が飛び交っていました。2019年はラグビーW杯、2020年は東京オリンピック・パラリンピックと国際的イベントが国内で続き、インバウンドの影響はまだ続きそうです。



翌5日は、笑いの殿堂なんばグランド花月で漫才と新喜劇を鑑賞。闇営業問題で揺れた吉本興業ですが、この日は笑いで花月が揺れていました。

大阪城や中之島周辺を巡る大阪観光クルーズでは、水鳥の目線で川面からの大阪散策を楽しみ充実した時間を過ごし、岐阜へと帰路に就きました。



今回はバス旅行でしたが、目的地が繁華街にあつたりとバスを横付けできない所がほとんどで、よく歩きました。またゴルフ・観光組に分かれることがなかったので首尾よく観光ルートを回れたのではないのでしょうか。参加者のみなさま大変お疲れさまでした。今回参加されなかった方も次回にご参加ください、よろしくお願いたします。

有限会社 飯尾工業所

有限会社 飯尾工業所はお客様を始め、周りの方々から温かいご支援をいただき、来年度創業60周年を迎えます。弊社ではおもに各種板金、製缶部品製作、機械加工を取り扱い、工作機械カバー、フレーム、食品関連機器、自動車部品の製造を行っています。

さて、一般的に製造業では、社員が明言されてはいないにせよ自分専用の機械・道具を使用することを好みます。以前は弊社も生産効率を上げるために分業化を進めておりました。しかし、時代とともにお客様のニーズは短納期、小ロット、多品種へととなり、社員間で仕事の偏りが出るようになりました。忙しい工程に労働力を集約させて作業員の負荷を平準化したり、生産性の向上を図ったり、納期・価格の面で最適な提案をするには、分業化もさることながら一人の職人がいくつもの技術を持っていることが必要となってきました。

そのため弊社では多能工化にむけ取り組みを始めました。最初の取り組みとして、それぞれの工程のやり方について、社員同士で教えあうようにさせています。その結果今まで行っていた作業以外の工程への理解が深まり、自らその時携わっている工程の前後工程に対する配慮が行われるようになってきました。また、他の工程の調子が悪い時、自分の工程が早く終わった時などに、お互いをフォローする空気が醸成され、技能的にも可能になりました。次の段階としては、工程間のローテーションを行いより多能工としての力をつけてもらいます。

また現在、弊社では溶接工程のレイアウト変更を行っています。近年板金業界では機械化が急速に進み、レーザー工程、曲げ工程は取り分け機械化が進んでおります。しかし、溶接工程はまだ個人の能力に頼るところが大きく、今後製造工程においてネックになると考えています。機械1台を購入する金額で工場レイアウトの費用にすればかなりのことができるということを社長に提案し、了承をいただきました。まだまだ雑然としているためどうなるかわかりませんが、これから一年かけ私が責任を持って工場レイアウトと溶接設備の改善に取り組んでいきます。乞うご期待。

飯尾 俊樹





読む茶道！ ③ 「賭け事から文化へと変貌した茶湯！」

こんにちは！ 茶道を気軽に楽しんでもらおうと始めたこの連載。今回は「賭け事から文化へと変貌した茶湯」をご紹介します。平安時代に菓として伝来した茶は、鎌倉時代には本茶と非茶を飲み当てる闘茶として賭け事など人々の「娯楽」となりました。そして室町時代になると公家の文化と武士の文化が融合し、さらには中国との貿易も盛んになりお茶の楽しみ方も変わっていきます。当時は沢山の絢爛豪華で珍しい中国美術品(唐物)を広い客間(会所)に「品よく」飾りそれらを愛でながら茶を飲むことが人々の娯楽となっていました。そして8代将軍・足利義政の時代になると、よりプライベートな空間(書院)で茶会が行われるようになります。(茶室の原型での茶会)その頃、一休禪師から禅を学んだ村田珠光(じゅこう)が、更にプライベートな四畳半という究極の空間(茶室)を考案します。広い客間(会所)で絢爛豪華な唐物を愛でながらワイワイと楽しんでいた茶会が、四畳半という狭い空間での茶会となったことで必然的に余分な物や華美な装飾が省かれていったのです。確かに物理的に色々置きたくても置けないですね。これが現在の茶道の「わび茶」の始まりだと言われ、質素な空間に美を探求し自らの価値表現を「一つだけ」見せるようになりました。「わび」とか「さび」といわれると構えてしまいがちですが、実はおもてなしをする空間の変化がもたらした「究極の自己探求」だったのですね。(笑)次回は「茶道が重んずるおもてなしの心」を紹介します。

11月に気軽なお茶教室開催します！

場所：金属工業団地組合会館「梅園茶屋」
 日時：11月28日(木)19時～20時
 参加費：1,000円(お抹茶・和菓子付き)
 お問い合わせ：「梅園茶屋」
 TEL 058-383-7151 FAX 058-383-7131
 E-mail：umezonojaya@carrot.ocn.ne.jp



日経新聞でも取り上げられた「どら焼き」で有名な「梅園茶屋」から今日ご紹介するのは「栗を使った秋のお菓子・第二弾」！

干し柿

普通の干し柿ではございません！(笑)

長野県伊那産の干柿を使用し、自慢の栗きんとんを詰め込みました。程よい甘味の干柿と栗きんとんが織りなす絶妙なハーモニーをお楽しみください。大好評につき事前注文をお願いします！



ご注文はこちらへ！

「梅園茶屋」(金属工業団地組合会館内)
 TEL 058-383-7151
 FAX 058-383-7131
 E-mail：umezonojaya@carrot.ocn.ne.jp



台風

45歳という青年部卒業の年に、予てより自分とは無縁と思っていた『ふいご』の執筆を依頼いただいた。文才が無く人に講釈できる知識も経験も無い私は一体何を書いたらよいのか途方に暮れながらも一生懸命考えてみた。

一生懸命考えてみたものの何かが出てくる訳もなく、悩みぬいた挙句に『最近、自分が疑問に思ったこと』について書こうと思った。それは、『地球温暖化による台風の強力化と台風発生数の増加について』である。なぜこのテーマなのかというと、折しも10月に台風19号が本州に上陸しようかという時に考えていたからだ。

さて、最近の台風で私の記憶に残っているのは、過去最大クラスと言われ、執筆当日の今まさに上陸しようとしている台風19号(上陸時955hPa)、9月に千葉県で大規模停電をもたらした台風15号(上陸時960hPa)、昨年に関西国際空港を水没させて弊社工場の屋根にも被害をもたらした台風21号(上陸時950hPa)である。では、本当に最近の台風は過去のものとは比べて強力化しているのか。

1. 上陸時の中心気圧が低い台風(1951～2018年)

第1位	1961年	第二室戸台風	925hPa
第2位	1959年	伊勢湾台風	929hPa
第3位	1993年9月3日		930hPa
第4位	1951年10月14日		935hPa
第5位	1991年9月27日、1971年8月29日、1965年9月10日 1964年9月24日、1955年9月29日、1954年8月18日		940hPa

上記を見る限りでは、最近の台風と比べて1951～1993年にかけて襲来した台風の方がより強力であったことが分かる。つまり、最近マスコミが地球温暖化によって台風が激しくなってきたのではないかと盛んに言っているが、実は過去数十年遡って見ると、1951～1993年にかけて上陸した台風の方が中心気圧ではより強力な台風だったことが分かった。

続いて台風の発生数は増えているのか。

2. 年代別、年間台風発生数(1951～2018年)

1951～1960年	平均24.6	1961～1970年	平均29.5
1971～1980年	平均26.5	1981～1990年	平均27.5
1991～2000年	平均26.2	2001～2010年	平均23.0
2011～2018年	平均26.1		

年間の台風発生数を見ても近年増加しているという訳ではなさそうである。

以上より、自分で導き出した結論として、『地球温暖化による台風の強力化と台風発生数の増加』は、数十年という単位ではデータ上因果関係を確認できなかった。それでも最近特にそう感じるのは、テレビやSNS等で台風被害の映像をより多く目にするようになったからではないのか。また、気象庁が減災を目的に『命を守る行動を』というフレーズを使って早め早めの避難を呼び掛けるようになったからではないかという結論に至った。(先日の台風19号で記録した神奈川県箱根町の観測史上1位の24時間降水量922.5mmなど、降水量に関しては更に資料が膨大であるので今回は検証していない。)

しかしながら、台風19号の被害からしても思うのだが自然の脅威を決して甘く見てはいけない。これからも油断することなく自然災害への備えを万全にしたいものである。

K.I



「MECT(メカトロテックジャパン)2019」

今回、青年部によりMECT(メカトロテックジャパン)2019へ行ってきました。メカトロテックジャパンは、1987年から2年に1度ポートメッセ名古屋で開催され、今回で通算17回目の国内最大級の工作機械見本市であります。工作見本市というと東京で開催されているJIMTOFを思い浮かべますが、近場の名古屋ということで行きやすく、多くの時間見学できました。見学日の10月25日は、あいにくの雨の中、来場者数が26,653人、開催期間4日間合計が90,000人を超える盛況ぶりに、消費増税があったものの、まだ投資に対する意欲が失われていないように感じました。



あるブースにいると知っている同業他社が多数見学に来て、「あれ買ったよ」等々の声を聴くとやっぱり最新の機械をもっと買いたいという気にさせられます。

有意義な見学が終わり、懇親会へ。懇親会は、岐阜周辺で行われることが多い中、名古屋で行われ、いつもとちょっと違った雰囲気情報交換ができ、また2年後の開催が楽しみにになりました。

代表者会議後の懇親会に参加

10月30日、野村證券様の研修会後、十八楼にて各企業の代表者による懇親会が開催されました。私自身、代表になって日が浅く年齢的にもハナタレ小僧以下なので、大先輩の方々のオーラに萎縮しつつ参加して参りました。

普段は、あまり団地企業との取引や交流もないので、代表者の方々の顔を知る良い機会になりました。

金属団地組合という、皆様ご存知の通り金属加工業の集まりですが、その中でも業種というのは様々あります。同業者の情報というのは日頃から入ってくるのですが異業種の情報なかなか入って来ません。そんな意味でも今回の親睦会は大変大きな意味があったと思います。

最後は鳥山副理事長の三本締めにて閉会し、懇親会では時間の足らなかった方々は、各々夜の街へと繰り出し熱い情報交換の続きをされたに違いありません。



自社の“認知度”を高め、応募に繋げるためには？ その4

先月号では、就職を控えた生徒の保護者(特に、母親)や地域の不特定多数の求職者への周知活動について述べさせて頂きました。今回も、その続編を述べさせて頂きます。

■不特定多数への周知のための一提案

②金属団地ニュースを活用した組合員企業の企業(求人)情報の発信

最近、高校を訪問して進路指導主事や学科の先生たちと面談している際に、「金属団地ニュースを読みましたよ。」とお聞きすることが増えています。また、岐阜県教育委員会が開催した高校の進路指導主事の会議で、「金属団地ニュースの記事を引用したお話がありました。」とお聞きしたこともあります。金属団地ニュースの発行部数や配布先等についてお伺いしたことがないので、詳細は存じ上げませんが、高校の進路指導部や専門学科の教員には愛読者がかなりいるのではと推測しています。

金属団地ニュースは、今年9月26日で540号の発行となり、月1回の発行とすると、創刊から45年目を迎えた“歴史ある業界ニュース”だと思います。この「金属団地ニュース」を組合員企業の企業(求人)情報の発信に活用してはどうか? 現在、金属団地ニュースは、①組合だより ②組合員企業情報 ③情報ファイル ④青年部コーナー ⑤ふいご ⑥お知らせ ⑦行事予定といった構成になっています。記事の大半が、組合員企業向けの内容(内向きの情報)で、求人ターゲットの高校や大学、一般の求職者に向けた情報(外向きの情報)が少ないように思います。金属団地ニュースは、金属工業団地が有する強力な情報発信ツールです。これを活用して金属工業団地協同組合員企業の企業(求人)情報を発信してはいかがでしょうか? ①会社情報 ②事業内容 ③募集対象 ④採用情報 ⑤企業(経営者&若手社員)からのメッセージ等の内容で、毎号数社程度を掲載すれば、1年間で全ての組合員企業を紹介できます。また、時期によりインターンシップの受け入れ情報等も掲載すれば、就職活動を控えた高校生や大学生にとって有効な情報源になるかと思えます。

配布先については(重複していたら申し訳ありません。)、以下、“蛇足”として記述させて頂きます。県内の高校の進路指導部や大学のキャリアセンター等はもちろんですが、金属工業団地の企業が求人ターゲットとされている県外の高校や大学等への提供も有効です。また、東京の岐阜県学生寮等への送付も効果があるかと思えます。郵送する際の“宛先”ですが、学校名&校長名・進路指導部などの一般的な職名ではなく、求人ターゲットの学科名や学科主任名での送付をお勧めします。“この情報は誰に届けたいのか?”を明確にし、“確実にその個人に情報が届く方法”を選択することが、企業を周知するためにはとても重要なことだと思います。ちなみに、求人ターゲットの学科が1校で複数の場合には、“それぞれの学科主任宛てに送付”するのが最良です。学科内での回覧(情報共有)はありますが、学科間での回覧は稀なことではほぼ行われていないと思えます。(私の体験上の感想ですが・・・)

③金属工業団地ニュース特別号:「金属工業団地・企業ガイドブック」の発行

各務原市企業人材全力応援室が主務を務めている「各務原市雇用・人材育成推進協議会」では、会員企業を高校生や大学生に周知するために『各務原市企業ガイドブック』を毎年発行し、県内の高校、大学、専門学校、更に、青森県から鹿児島県までの東海地域への就職者が多い高校や大学、専門学校等に届けています。(金属団地ニュースN0,539に記述) 市内企業を不特定多数の人たちに知ってもらう際の説明資料として有効活用しています。金属団地ニュースの特別号として、前述の企業紹介の記事をまとめて「金属工業団地・企業ガイドブック」を作成し、組合企業の周知活動に活用されてはいかがでしょうか。1社ではできないことを“チーム・金属工業団地”で行えば効果が大きいと思えます。

④金属工業団地組合主催の「企業説明会」の開催

例年、新規学卒の採用活動解禁と同時に、リクナビ、マイナビ、名大社といった大手就活支援企業

が「合同企業説明会」を開催しています。これらの説明会への参加には多額の出展料が掛るため、多くの企業では“費用対効果”の面で出店が難しいようです。企業人材全力応援室でも年に何回か、岐阜労働局と共催で企業説明会を開催し、企業様には出展料等の負担なしで参加して頂いています。岐阜市や関市などの自治体でもこのような企業説明会を開催しています。これら自治体主催の合同企業説明会の参加企業募集の案内があったら、参加を検討されてはいかがでしょうか。これらの合同企業説明会に参加して就職者がありました、とのお話を幾つかの企業の担当者からお聞きしています。

県内のある産業団体が主催して、高校の教員を対象とした企業(就職)説明会を開催している例もあります。金属工業団地協同組合主催の「組合員企業合同説明会」の開催もアリかと思えます。会場は、求人対象により組合会館、じゅうろくプラザ、各務原市産業文化センターなどの利用が考えられます。「合同企業説明会」開催のノウハウは企業人材全力応援室が持っていますので支援可能です。高校を会場とした「金属工業団地の合同企業説明会」が開催できれば最高ですね。この会での配布資料として「金属工業団地・企業ガイドブック」は必須になるかなと思います。

■ 8月号の追加として：高校教員の“自社の認知度”を高めるためには？

1. 金属工業団地組合会館の活用：高校等の会議の会場としてリース

金属工業団地の西側には東海北陸自動車道の岐阜各務原 I Cがあり、西濃、飛騨、東濃の全県域からの交通アクセスが良いという利点があり、この地は“人が集まり易い場所”です。以前のことで、岐阜県高等学校教育研究会工業部会の機械系分科会(県内工業系高校の機械系学科主任の会議)を、金属工業団地組合会館をお借りして開催したことがありました。会議の後に、出席者全員で組合員企業様を何社か見学させて頂いたことを記憶しています。長年工業教育に携わっていながら、金属工業団地の組合会館を訪れたのも組合員の企業様を見学させて頂いたのも初めてでした。これは私だけではなく、当日参加した機械系教員の多くが同じ様でした。“学校の近くにあり、何回も側(R21)を通っているのに何も知らない所、それが岐阜県金属工業団地”、高校の教員の多くがこのような状況ではないかと思えます。

高校には、県内各地域から教員が集まって開催する会議が多くあります。商業科や農業科、家庭科教員の会議、工業科の各学科主任の会議、工業系や商業系、農業系の校長が集まる会議、教頭が集まる会議、国語や数学、理科など各教科の教員が集まる会議、教育課程に掛る会議等々、上げたらきりがありません。会場は、各校の持ち回りや、主務者がいる高校など様々です。専門学校や企業、団体、ホテル等の会議室をお借りして開催したこともあります。金属工業団地協同組合及び組合員企業をより多くの教員に周知するために、会議の会場として組合会館をリースしてはどうでしょうか。会議と組合員企業の見学をセットすれば、有効な企業周知活動になると思います。

求人活動で、高校生や大学生、求職中の人たちに“自社を選択してもらおう”ためには、これらの人たちや関わる人たちに“自社を知ってもらおう(認知度を高める)ことが第一”です。そのために、各企業個々の求人活動の展開はもちろんですが、組織的な活動も重要だと思います。金属工業団地には、①企業 ②組合 ③組合会館 ④金属団地ニュース という“組織の利”があります。また、⑤交通の要としての岐阜各務原 I C、⑥集客力抜群の商業施設等の“地の利”があります。更に、⑦通勤圏内には20を超える就職者が多い高校・特別支援学校“人の利”があります。これだけ“地の利・人の利”に恵まれている地域は、県内だけではなく全国的に見ても稀だと思います。これらの“利”を有効に活用して金属工業団地の企業により多くの人材が集うような仕掛けをしてみませんか。お手伝いをさせていただきます。

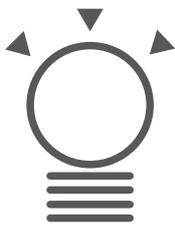
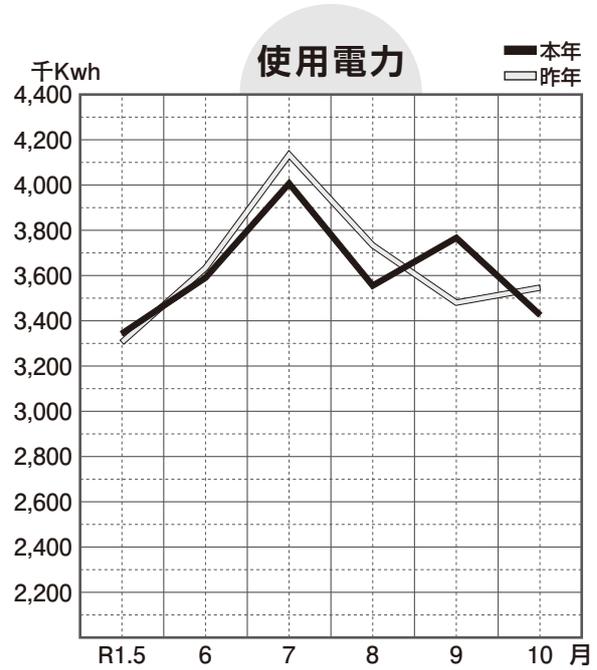
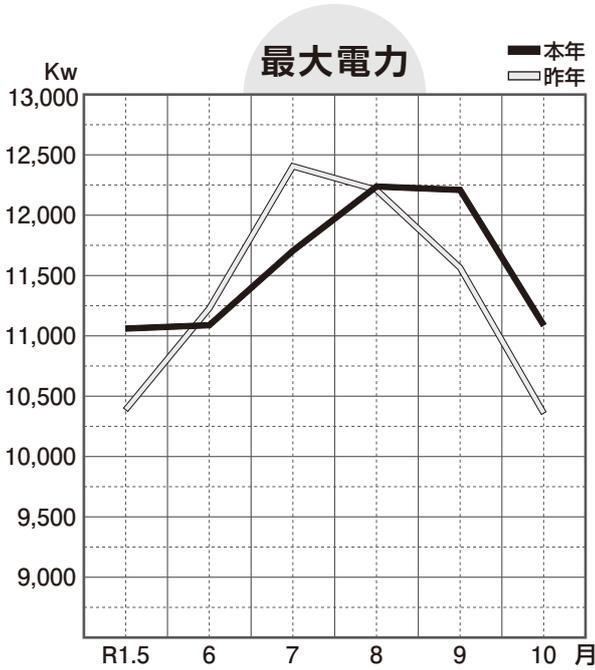
今回は、求人ターゲットの高校とのパイプづくりについての一提案をさせて頂く予定です。

(文責:各務原市産業活力部商工振興課企業人材全力応援室長 長屋千秋)



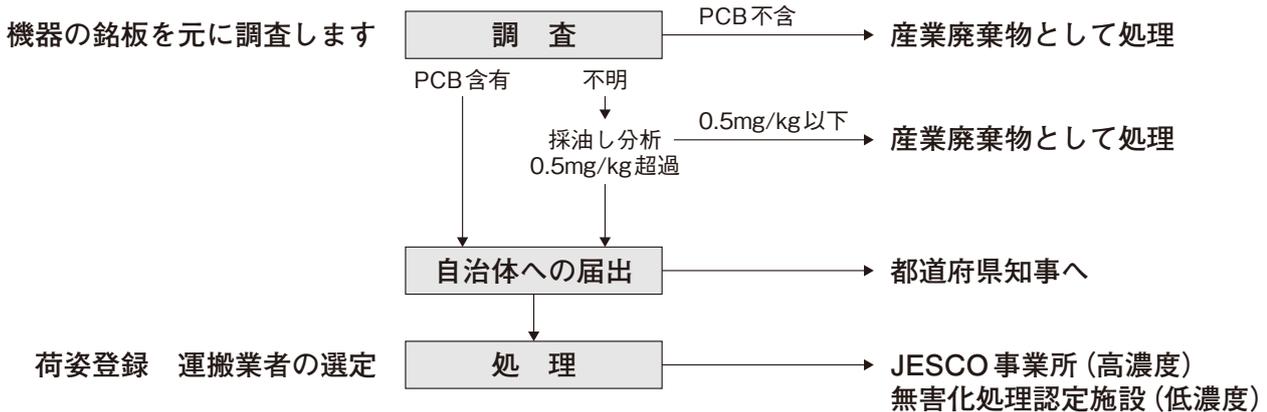
お知らせ

令和元年10月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

PCB 廃棄物の処理方法



低濃度PCB廃棄物は2027年3月までに適正に処分しなければいけません

PCB特措法の改正により、都道府県市による掘り起し調査に関して、報告、徴収や立入検査等の権限が強化されました。

PCBが含まれている主な電気機器には、変圧器、コンデンサ、蛍光灯の安定器があります。工場内に取り外されている蛍光灯器具や安定器はPCB混入の疑いから処分できなかった可能性がありますのでご確認をお願いします。

行事予定

2019 **11** November

16 土	各務原市長杯市民ゴルフ大会 『組合休日』
17 日	
18 月	三組合同講演会(月例会)
19 火	十六会
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	団地G 団地ゴルフ会と青年部OB・青年部の情報交換会 『勤労感謝の日』 『組合休日』
24 日	
25 月	理事会並びに役員交流会(岐阜県中小企業団体中央会)
26 火	編集委員会
27 水	
28 木	全国工場団地トップセミナー
29 金	役員会
30 土	『組合休日』

2019 **12** December

1 日	
2 月	
3 火	
4 水	青年部役員会
5 木	
6 金	
7 土	『組合休日』
8 日	
9 月	
10 火	編集委員会
11 水	経営者セミナー(中金会)
12 木	
13 金	
14 土	『組合休日』
15 日	

■ 12月の行事予定

12月16日(土) 月例会、役員会 12月19日(火) 役員忘年会 12月21日(木) 団地G・団地G忘年会

■ 1月の行事予定

1月7日(火) 金属団地新年互例会

■ 10月度金属団地ゴルフ会

10月26日(土) 美濃関カントリークラブ
優勝 今井哲夫(今井航空機器工業) 2位 洞田オサム(ホラタ、工業) 3位 小栗國男(信栄ゴム工業)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

